

令和3年度 第2回 横浜市自転車等施策検討協議会 議事録	
日 時	令和4年3月25日(金) 10:00~12:00
開催場所	市庁舎18階会議室
出席者	岡村委員(会長)、秋和委員、阿部委員、井上委員、大石委員、絹代委員、小嶋委員、五反田委員、佐竹委員、長谷川委員、馬場委員、福田委員 計12名
欠席者	青木委員、岡崎委員、角地委員、鈴木委員、八郷委員 計5名
開催形態	公開(傍聴者6名・報道関係者0名)
資料	次第、委員名簿、説明用資料
<p>1. 開会</p> <p>①開会あいさつ等</p> <p>※新任委員紹介</p> <p>※開会あいさつ後、会議の公開等に関する説明</p> <p>※事務局より配布資料について確認</p> <p>※以降の議事進行を議長に引き継ぎ</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 各施策の実施状況について</p> <p>(事務局)</p> <p>※説明資料を用いて、「各施策の実施状況について」説明</p> <p>(絹代委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの感染が落ち着かない状況の中でも、災害時に自転車を活用する等、いろいろな面で自転車を活用する取組が行われている。</li> <li>・ その中で、今、私たち自転車に関わる者の中で最大の関心事が、自転車の事故が増えているということだ。最近、レンタサイクルなどで他府県各地を走る機会が増えているが、横浜市内は非常に自転車が走りにくい状況があると感じる。</li> <li>・ 市で自転車関係に携わっている複数の部署が共通のビジョンを持って計画を練りながら進めていかれているのか。例えば、高速道路の入り口で自転車は強制的に歩道にあげられ陸橋を渡る形になっている。陸橋は長い蛇行するスロープで自転車の走行は禁止、押し歩きが必要。子ども乗せ自転車で前後に子どもを乗せると、自転車の重量は70kg近くにもなり、押しながら坂を上り下りするのは非常に困難で、雨天時などは危険がさらに増す。結局自転車側が無理や危険を強いられることになる。本来は、自転車も安全に走れるようにすべきであるが、こういう施策が車優先というメッセージになってしまう。車も自転車の走行スペースの配慮なく左側に寄せて走ることが多い。実際に幅寄せされ、その時同乗させていた娘の命の危険を切に感じた。</li> <li>・ 資料26ページの写真の、矢羽根の上を自動車が行ったり駐車したりしている光景が示すように、自転車の走行スペースが確保されていないのが現実だ。</li> <li>・ SHARE THE ROADの取組を行っていても響いていない。自動車と自転車の道路の共有、使い方について、意図が届く伝え形をしてほしい。</li> <li>・ 資料13ページのチラシだけでなくポスターを作ってほしいとお願いしたら迅速に対応してくれてありがたい。効果的な形になっていると思う。ポスターについては配布を終えているのか。</li> </ul>	

(事務局)

- ・ 保育所等への配布は順次行っているところである。
- ・ 園長会等を通じて、私たちの考えを説明しているが、そのあとどのように使われているかについては、課題だと考えている。
- ・ 通行空間については、はしる施策の中で方針を3つ定めている。特に方針3の中で安全・快適な自転車空間を整備することを上げており、この中では自転車通行環境の快適性・通行空間を目指していくべきという目標を警察と連携しながら実施するというで謳っている。今回の話の中で、通行空間を作るだけでなく、作った後どのように運用していくか考えていかなければならないと改めて感じている。

(岡村会長)

- ・ これまで横浜市では矢羽根を引く等、走行空間を量として整備することを重視していた。
- ・ 今までは既存の道路の中にどう自転車通行空間を入れ込んでいくかということをやむを得ない部分があったと思う。自転車単独ではなく交通全体で考えなくてはならないことであり、交通管理者にも関わってもらうなど、次の段階に進んでいかなければならないところにある。
- ・ 問題が顕在化している場所での事例を参考に、新規整備の際に歩行者空間を含めてどうしていくか考えてほしい。特に横浜は郊外部が大切だと思うので、しっかり考えていくべきである。

(佐竹委員)

- ・ 自転車の安全利用について、横浜市交通安全協会では管理運営している西部区域の市営自転車駐車を活用してまもる施策を実施している。例えば、利用者に対して市のリーフレット「自転車ルールのきほん」を掲示したり、神奈川県警察と連携して具体的な事例に基づく交通事故注意喚起のチラシを作成し配布する等の取組を行っている。また、自転車保険の加入の働きかけも行っている。
- ・ 各自自転車駐車場は自転車を利用する人たちが集まる場所なので、交通安全の拠点として活用していくことが大切だと思う。

(福田委員)

- ・ 自転車保険には、生命保険の特約としてカバーされるものもある。そういった人の数値についても加入率調査の中で含まれているのか。
- ・ 今後、シェアサイクルで区域拡大を行っていくとのことだが、区域をこえた相互乗り入れ等は可能かどうか。

(事務局)

- ・ 加入率調査については、自転車保険という言葉に引っ張られている結果になっている側面がある。実際は特約や付帯でカバーされている人は多いと思うが、カバーされていることを知らない人が多いと感じる。自転車保険については色々なメニューがあることを説明したうえで調査を行っているが、もう少し分かりやすい聞き方にしたいと感じる。
- ・ シェアサイクルの相互乗り入れ（特にベイバイクエリア）について、現時点では事業者が確定していない。事業者が確定した後、複数の事業者が参入することになれば、連絡調整会議を開催していこうと考えている。その中で、利用者の利便性向上のためにどのような取組ができるのか、エリアの境界でのポート設置等について、決定した事業者と協議し、多くの方にとって利用しやすくなるよう進めていきたい。

(絹代委員)

- ・ 横浜市で数年前に自転車保険の加入率を上げようとしていた時は、個人賠償責任保険を含めて加入向上へと広報を進めていったと思う。
- ・ 個人賠償責任保険はオプションでお金を払っているのに、知らないということは無いと思うが、仮に払っている本人が（支払いを）知らないのであれば、加入率調査ではわからないと思う。
- ・ 資料 9 ページでスケアードストレイトを今も実施している理由は何か。かえって逆効果であるという研究結果も出ているだけでなく、費用も高額になっているため実施しているところは少なくなっている。

(事務局)

- ・ 自転車保険については、これまでも啓発の中や調査等でも個人賠償責任保険等を含めて説明をしている。回答者が個人賠償責任保険についても認識したうえで回答してもらえれば、加入率の数値が上がるかもしれない。
- ・ スケアードストレイトについては、過去に京都でスタントマンが亡くなるという事故が起きた際、横浜市としても継続について検討した。現場で要望があるところで実施していること、交通安全関係の取組については、神奈川県交通安全計画等を踏まえて取り組んでいる中、現在は、やるべきではない、という判断には至っていない。

(岡村会長)

- ・ スケアードストレイトについては、色々な議論がある中で、やり方を考えていくところであるため、引き続き検討すべきと思う。

(小嶋委員)

- ・ 若年層の自転車保険の加入率が低いことについて、子どもから保護者に「自転車保険に入りたい」と言ってもらえるよう、学校から子どもを通じて保護者の方にお話ししてもらいたいようなことも検討していただきたい。

(事務局)

- ・ 未成年については保護者が既に加入している場合があるため、自転車保険に加入しているか確認してもらいきっかけを作ることが大切である。引き続き交通安全教室等を通じて啓発を行っていききたい。

(阿部委員)

- ・ シェアサイクルの社会実験について、広域展開を行っていくということだが、シェアサイクルも「賑わいのあるまちづくり/自転車を活かした健康づくり」につながる。その意味でシェアサイクルを導入することが目的にならないようにしなければならない。最近通勤だけでなく余暇の楽しみや健康づくりにシェアサイクルを使う方が増えてきたので、地域の方に利用してもらえるような、また利用したいと思ってもらえるような取組を実施していく必要がある。公共交通機関の補完だけでなく、いかに楽しんでもらえるかを考えると良いと思う。
- ・ 市民への情報提供と仕組みづくりが大切であり、市公式 LINE 等を活かすことも良いと思う。ベイバイクでも、情報を利用者に発信することが始まっているので、そういった取組も参考にしてはどうか。

(事務局)

- ・ 今回の広域シェアサイクル社会実験は地域が広いので、地域により密着している区役所と連携しながら進めていきたいと考えている。区の職員と地域の生の声を受け止め、ポートの配置につ

いても、市民の利便性をいかに向上させるか、またどうすれば日常生活の足になっていくかを考えながら実施していきたい。

- ・ 広報のやり方についても、例えば、これまでやってきたスタンプラリーのようなイベントや区役所の広報等と連携して、少しでもシェアサイクルの利用が促進されるように進めていければと考えている。

(岡村会長)

- ・ コミュニティサイクルの導入そのものが事業目的にならないようにということは重要なところである。
- ・ 事業者としては貸出回数が多いことが採算性に繋がるため、貸出回数を増やしたくなると思う。駅の市営自転車駐車場の余剰区画にポートを増やせば利用回数が伸びるのは明らかである。しかし、その場合、バスの代わりにコミュニティサイクルが利用される可能性もあり、公共交通との関連で、市の事業として実施するのがいいのかとはまた異なる。
- ・ 検証の際には、どんな利用が多かったかということはぜひ見てほしい。どこからどこまでの利用が多いかは通常の検証で出てくるが、どのような場面で利用しているか（例えば、クルマから転換しているなど）の検証はやりにくく、どうしても利用回数に着目してしまいがちなので、ぜひ注目して取り組んでほしい。

(事務局)

- ・ どのような場面で利用されるかについては、事業者の責務として利用者アンケートを毎年取ることとなっている。アンケート結果などから分析していきたい。
- ・ バス事業者との関係性も重要なテーマと考えている。特にバス網が行き届かない交通不便地域について、どのようにポートを配置していくかも課題と考えている。例えばポートを配置する公有地の一つとして、市営住宅を想定しているが、駅から離れた市営住宅についてもポートを展開し、周辺の住宅地の住民も利用できるように環境を整えていきたいと考えている。

(阿部委員)

- ・ 休日の自転車利用がコロナ禍で健康やレジャー目的で増えている。こういったことも踏まえて検証できれば、的を射た施策になると思う。

(2) 指標の達成状況について

(事務局)

※説明資料を用いて、「指標の達成状況について」説明

(絹代委員)

- ・ 資料 49 ページで自転車のルールを知っていても行っていない人が 15%という数値が出ている。資料 51 ページの中で守っていないと思う人がほぼ 8 割になっているおり、これが横浜市の実状ではないか。市民の方に届く方法で啓発を行っていくことも必要と考える。
- ・ 啓発については、もっと協議会委員を頼ってもらってよい。例えば、交通安全の動画公開時にシェアしてもらうことをお願いしてもいいのではないか。情報を広く届けていくことが重要で、特に LINE は利用者が増えているので、ぜひ活用して行ってほしい。
- ・ 自転車活用の中で健康づくりの要素が少ないと感じる。多くの人が自転車を持っていると思うが、シェアサイクルを使い堤防上など気持ちのよいところで走っている人も多く見るようになった。取り組みやすい健康のための提案も、考えていったらよいのではないか。

(事務局)

- ・ ルールを守っているかという自身への回答と、守られているかという他者への回答が乖離していると考えている。引き続き啓発を行っていききたい。
- ・ 情報の発信については、Twitter など新しい取り組みを行っているが、対象者へ届けるルートの開拓が課題だと考えている。情報を広める力を持っている協議会委員のご協力をいただいたり、市民がアクセスしやすい要素を混ぜ込んだりしながら、取り組んでいければと考えている。

(小嶋委員)

- ・ 今回のアンケート調査の対象者は広く薄くとなっているが、それと同時に、自転車通行空間を整備した路線でどのように市民が感じているのか、通行が変化したのか等、調査をしていただければと思う。

(事務局)

- ・ 自転車の通行空間の整備については、路線やエリアを設定して取り組んでいるため、市全体を対象とした調査では、効果が薄く出てしまう面もあると思う。今後の調査については、通行空間を整備する部署と意見交換しながら考えていききたい。

(阿部委員)

- ・ 指標達成状況について、手段と結果の2つが一緒になっている。いかす施策の件数が満足度につながるのではないかな。
- ・ いかすの満足度で「活用されていると思う理由」にシェアサイクルがあがっているのも、やはりシェアサイクルを日常利用から余暇の楽しみ、健康づくりにまで広げることでより満足度があがるのではないかなと思う。

(事務局)

- ・ 今後、次の指標を定めていくことになるため、いただいた意見を踏まえながら、どのような指標を設定すれば計画に対する評価を適切に行うことができるようになるか、考えていききたい。

(佐竹委員)

- ・ 調査について、年齢別で分析するなどを行っているのか。
- ・ 例えば利用形態別や年齢別で分析することで今後の対策に活かせると思う。

(事務局)

- ・ さらにデータを分析し、今回の調査結果を活かしていききたい。

(岡村会長)

- ・ 単純集計だけだともったいないので、ぜひクロス集計等も行ってもらいたい。

(3) その他

- ・ 特になし

3. 閉会